

世界に誇れる極上の会津米づくり「目指そう 今年も特A 会津コシ1等米100%」

両沼地方稲作情報 第4号 令和元年7月1日

発行： 福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)
" 金山普及所 (電話0241-54-2801)
JA会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店
(有)山一米穀店、会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区

- ★ 水稻の生育は、平年並みです。穂肥は葉色を見て適期に実施してください。また、一発肥量を使用した場合、追肥(穂肥)は基本的に不要です。
- ★ 斑点米カメムシ類の発生が県全域で平年より多いため、対策を徹底しましょう。出穂前の草刈りは、出穂10日前までに済ませましょう。

1 気象情報 (令和元年6月27日 仙台管区気象台発表「東北地方1か月予報」より一部抜粋)

<6月29日~7月28日までの天候見通し>

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の降水量は、多い確率50%です。日照時間は、東北日本海側で平年並または少ない確率ともに40%、東北太平洋側で少ない確率50%です。

2 生育状況

6月25日の生育調査の結果、草丈は平年比92~99%程度でやや短くなっています。茎数は平年比89~92%と少ない傾向にあります。葉齢は平年比-0.4~-0.2と平年よりやや少なくなっています。

表1 生育調査結果 (5月20日 中苗手植え、会津地域研究所)

品種名	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉齢(葉)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
コシヒカリ	43.1	43.7	99%	630	711	89%	9.2	9.5	-0.3
ひとめぼれ	40.6	42.2	96%	703	764	92%	9.3	9.5	-0.2
天のつぶ	43.7	44.4	98%	609	687	89%	8.6	9.0	-0.4

※平年値は直近5年間平均。

出穂期の平年値
コシヒカリ 8月6日
ひとめぼれ 8月1日
天のつぶ 8月3日

3 今後の管理作業のポイント

時期	7月			8月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ		幼穂形成期		→ 出穂期	登熟期	→
水管理	間断かん漉		→	湛水管理	→	間断かん漉
作業		穂肥	いもち病防除		カメムシ防除	

- ・ 中干し後は、間断かんがいで根を健全に保ちましょう。幼穂形成期及び減数分裂期に低温(平均気温20℃以下、最低気温17℃以下)の恐れがある場合は深水(水深10cm)とし、幼穂を低温から守ります。
- ・ 出穂期前後の約10日間は水を必要としますので湛水管理とします(花水)。その後は、間断かんがいとし、出穂期後30日まで水を切らさないようにします。
- ・ 穂肥の時期や施用量は、出穂25日前の生育状況により判断します。基肥一発肥料を使っている場合は、原則として行う必要はありません。

4 高温対策について

- ・ 登熟期前半（出穂後 20 日間程度）に高温が続くと、高温登熟障害（白未熟粒等が多発）により、米品質低下が心配されます。高温が続く場合は、地域の水量を考慮して、湛水管理などで地温を抑制しましょう。

5 穂肥（出穂 25 日前の生育状況から判断しましょう。基肥一発肥料の場合、原則必要ありません）

- ① 幼穂長により出穂前日数を確認します。出穂 25 日前に稲の生育を確認し、草丈が長く葉色の濃い場合は、穂肥の量を減らすか時期を少し遅らせましょう。

表 2 幼穂長と出穂前日数の目安

幼穂長	0.1 cm	0.2 cm	1 cm	2 cm	8 cm
出穂前日数	25 日	21 日	18 日	15 日	12 日

表 3 幼穂形成期と出穂期の平年値について

品種名	幼穂形成期	出穂期
コシヒカリ	7月16日	8月6日
ひとめぼれ	7月9日	8月1日
天のつぶ	7月11日	8月3日

表 4 幼穂形成期（出穂 25 日前）の標準的生育

品種名	草丈	葉色（カラースケール）
コシヒカリ	65～70 cm	3.0～3.5
ひとめぼれ	60～65 cm	3.5～4.0

- ② ひとめぼれ、天のつぶは、出穂 25 日前にチッソ成分 2 kg/10a を基本とします。
- ③ コシヒカリは倒伏しやすいので、施肥時期を遅らせ、出穂 15 日前にチッソ成分 2 kg/10a を基本とします。

6 病虫害防除

(1) 穂いもち対策

- ① 水面施用剤を使用する場合は、出穂前に適期に散布してください。
- ② 散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃い期の 2 回散布してください。
- ③ 穂いもちの多発が予測される場合には傾穂期に追加防除を行います。

(2) 斑点米カメムシ類対策

- ① 出穂期前後の草刈りはカメムシを水田内に追い込むので、出穂 10 日前までに行います！
- ② 粉剤、液剤等による防除は、乳熟期（出穂期の 7～10 日後）を基本とします。水面施用剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布します。その後の多発が予測される場合には、散布剤で追加防除を行きましょう。
- ③ カメムシの多い地域や「天のつぶ」を栽培している水田では、乳熟期と糊熟期の 2 回防除をおこないきましょう。

○農薬使用の際は、必ず包装や容器のラベルを確認し、記載事項を守って正しく使用しましょう。

**○農作業事故が増えています。農作業時の事故に注意してください。
また、気温が高くなりますので水分を補給して、熱中症にご注意ください**

御不明な点は最寄りの発行元、または普及所までお問い合わせください。